

# 教師として生きる — 苦悩・挫折から希望・再生へ —

## 講演 『現代の教師問題』

久富善之さん(一橋大学名誉教授・雑誌「教育」編集委員)

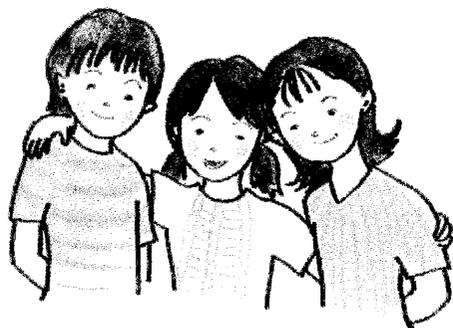
講演者紹介…教育社会学が専門。『競争の教育』(旬報社)『学校文化という磁場』(柏書房)『現在の子どものわかる本』(学事出版)『教員文化の日本的特性』(多賀出版)『教師の専門性とアイデンティティ』(頸草書房)など著書多数。この3月に採用3ヶ月で自殺した教師の「公務災害申請」。弁護士、遺族、研究者、青年教師の声を編み、『新採教師はなぜ追いつめられたか—苦悩と挫折から希望と再生を求めて—』(高文研)を編集出版。その中の一節。「いまの状況は『教師たちがこれほど苦しんでいる』ことがすでに社会問題であり、これを何とかしないと、日本の学校教育の明日はない、というほどひどい状況だと言えよう」

# 6月26日(土)

全体会:午前10時~12時

学年別分科会:午後1時~4時

中小企業会館(西大路五条下がる)



京都市教育委員会が主催する「メンタルリフレッシュセミナー」で、臨床心理士の鳴岩伸生氏は、「教職員の疲弊の原因」を六つ指摘しています。①休憩時間のない職務 ②子どもと関係の薄い文書の横行 ③トップダウンが横行し方針決定にかかわれない ④地域や保護者への気遣い ⑤育てていない子どもの指導 ⑥自己責任としての「協働」 どうですか?思い当たることばかりなのではないでしょうか。2010年度の6月学年部教育研究集会は、この現代の教師問題に焦点を当てます。全体会は、この春『新採教員はなぜ追いつめられたのか』(高文研)を編集・執筆・出版した一橋大学名誉教授で、雑誌「教育」編集委員でもある久富善之さんの講演を中心に行います。午後の分科会では、具体的な生活指導や強化の指導、子どもの見方の実践報告はもちろん、「追いつめられている」実態についても語り合ひましょう。校務多忙の時期ですが、ぜひ今からご予定ください。